いきいきライフに乾杯！

当たり前の日常が映像でひかり輝く

足利映像クラブ 代表 石川 勝さん（65歳）

アマチュア映像作家の石川勝さんは、11月末の第22回足利山岳映画会を控え、編集と宣伝とに余念のない日々を過ごしている。

日光市出身の石川さんは23歳で結婚を機に足利に移り、鉄工業に従事する傍ら、故郷日光の山々への憧れを強く持っていました。そうするうちに、山岳映画に惹かれるようになり、東京の山岳映画会に熱心に通うようになりました。

1998年に足利で山岳映画会を立ち上げ、6年目に初作品を発表、2003年には、自ら映画づくりを始めました。趣味で撮りためていた映像が、観る人に「伝わる」作品として蘇る素晴らしさ。趣味が高じて、映画づくりに魅了された石川さんの想いは強くなり、2010年には、「足利映像クラブ」を結成し、会員が手掛ける映像作品の指導もしています。また、市のサポートを受け、市民映像編集講座の講師として映像指導にあたり、本市の進める映像のまち構想の一翼を担っています。

「テーマは全て、自分の生き方と一体の関係性を持っている」と石川さん。映像制作の幅も広がり、山岳映画のみならず、学童保育の魅力や、子どもの心を育む92歳の現役女性主任保育士に焦点を当てたドキュメンタリー映画も手掛けています。撮影をする中で、女性の持つ機転が、その対象の心を動かすことがあるといいます。女性の持つ明るさ、社交性が相手の警戒心を解き、自然体の撮影ができる女性こそ人の心に響く映像が誕生するのでは。そう思うこともあるそうです。

「自分の想い、琴線に触れることを感動とともに記録したい。映像ってね、知らなかった世界と出会うことができるんだよな。」石川さんは目を輝かせながら語りました。（H・G T・K）

足利市の取組紹介

5月31日(金)に葉鹿公民館で、また、7月3日(水)に富田公民館において、人権・男女共同参画に関する出前講座を実施しました。ワークショップ形式での講義展開でしたので、皆さん主体的に取り組んでいました。

ただ、人権や男女共同参画というものは、目に見えないものなので、特に人権問題に関しては、皆頭をひねりながら頑張って考えているようでした。男女共同参画に関しては、家庭内の家事分担についての項目等も織り交ぜたり、標語を実際に作ってみたりと、できるだけ身近な話題を提示することで理解の促進を図りました。

今回の講座はシニア層を対象にしたものでしたが、今後は、幅広い世代を対象にした講座を通して人権・男女共同参画の普及啓発をしていきたいと考えています。

＊＊＊ 編集後記 ＊＊＊

2020年東京オリンピック・パラリンピックが、もう間もなく開催される。先日、私の勤務先である歯科医院でのランチタイムで観覧チケットが話題になった。1964年の東京オリンピックの際は、ハガキで抽選に参加したそうだ。当時28歳だった院長は、一枚だけ閉会式のチケットを手に入れた。「家族を代表して母に行ってもらったんだよ。」と目を細めて思い返されていた。母親想いのエピソードに心が温かくなった。

自分の可能性を信じて努力する姿は、老若男女を問わず美しい。昨今の悲惨なニュースが後を絶たない中、わが国で開催されるオリンピック、世界中の人々の笑顔と感動があふれるものになってほしいと願うばかりである。（T.M）

●編集　「かけはし」は市民の編集委員と人権・男女共同参画課が共同で年2回発行しています。<編集委員>源田裕久、小林知子、富永三知男、保々政司、本島多加子（50音順）
●発行　足利市総務部人権・男女共同参画課　〒326-0823 足利市朝倉町264　TEL 73-8080　FAX 73-8066
●E-mail　danjyo@city.ashikaga.lg.jp　●ホームページ　http://www.city.ashikaga.tochigi.jp　●表紙の題字は根岸君子さんです。